令和７年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名	臨床1　　卒後臨床研修センター
中間責任者②（部長・委員長等）氏名	卒後臨床研修センター長 伊藤量基

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題、⑤自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）						教育研究推進委員会による点検・評価		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）		該当事項（※1）	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告（案）	
				途中経過・状況	評価（※2）	部門講評		評価（5段階）	講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1	卒後臨床研修評価機構の訪問調査を受審し認定評価を得るとともに（附属病院）、令和8年度の訪問調査に向けた研修プログラムの充実にに取り組む（総合医療センター）	②④	附属：11月の訪問調査に向けて準備中。また、臨床能力向上を目的とし、軽症・中等症当直体制を変更（9月から開始）。 総合：翌年度の訪問調査を見据えた取り組みを開始。	A	附属： ・11月にJCEP訪問調査を受審。引き続き4年認定を受けることができた。 軽症・中等症当直の連絡体制を「患者来院時に当直医から研修医への連絡」としたが、うまく機能していない為、次年度に向けて改善策を講じる。 総合：次年度の訪問調査を見据え、未整備事項の対応等について原案を作成中である。	最終報告を待つ。	A	附属病院は認定を受けることができた。改善が必要な点は次年度の対応に期待する。
	2	研修医勉強会等の拡充を図り、臨床研修医の基本的臨床能力向上の支援に努めるとともに、基本的臨床能力評価試験結果の向上を目指す。	②	研修医勉強会実施回数を増加するとともに、勉強会講師による基本的臨床能力評価試験問題の解説を実施中。	B	・各診療科協力のもと、年間23回研修医勉強会を実施。また、当院研修医の正答率が低かった基本的臨床能力評価試験問題の解説も実施しており、参加研修医の90%以上が「当該問題に対する理解を深めた」とアンケートに回答したことから、勉強会の効果は非常に高いものであった。 ・今年度は1月28～29日で試験を受験し、2月末に結果が判明予定。	着実に進めることができた。成果に期待する。	A	試験結果判明前ではあるが、研修医の支援体制は整えることができた。
	3	臨床研修医定員数増加のため、各種説明会で令和8年度開始の広域連携型プログラムを含め積極的な広報を行い、フルマッチ継続を目指す	①②	・卒研HP、「レジナビフェア」「研修医と語ろう会」等で、新たなプログラムである救急医学科重点、広域連携型を含む本学プログラムの広報を実施。 ・令和8年度採用試験の受験応募者数は162名であり、大阪府研修医定員の基礎資料となる「募集定員の3倍以上」を達成。マッチング結果は10月23日に判明。	S	令和8年度採用研修医は附属病院46名、総合医療センター7名計53名であり、フルマッチを達成した。なお、附属病院は11年、総合医療センターは17年連続のフルマッチである。	最終報告を待つ。	S	目標を達成することができた。
	4	診療科と連携し、研修医の出退勤及び残業時間の管理を行うことで、医師の働き方改革の適正実施に努める	③	出退勤打刻漏れのある研修医に対して勤務実態の証明を求めるなど、勤怠管理を厳格化。また、5月及び7月にセンター長名の注意喚起文書を発出（7月は対面でも説明）し、研修医の勤務実態の把握に努めている。	B	・センター長名による注意喚起文書発出以降、出退勤打刻は概ね徹底されている。 ・一部の打刻漏れ研修医については、警告文書を発出するとともに、必要に応じて面談を実施し、勤務実態の把握及び適正化に努めた。	確実に実行されたい。	B	一部、打刻漏れが見受けられる状況にあり、改善に努められたい。
期中追加 目標・計画									